

#### 4. リプロダクティブ・ヘルス/ライツ：全ての命を守るために

全ての子供が望まれて生まれ、出産が安全なものであれば、家族はより小さな規模になるが、より強くなる。

世界的な傾向として家族はより小さな規模になってきており、1950年に比べて半分の大きさになった。これは女性が教育や保健医療ケアを享受できるようになったためである。この著しい成功を継続させるためには、家族計画サービスの普及を継続させることが不可欠である。

世界人口の増加は、一人ひとりの決定によるものである。しかし、2億1,500万人の女性が効果的な家族計画サービスを入手し、自らのリプロダクティブ・ライツを行使できずにいる。その一方で、避妊に関する開発援助は、1995年の半分である年間4億米ドルに留まっている。

あまりに多くの女性が早すぎる年齢での出産を経験している。そして出産間隔があまりに短いため、出産により命を落とす女性も多い。毎日1,000人、つまり90秒に1人の女性が出産時に亡くなっており、今年580万人の新生児が最初の誕生日を迎える前に亡くなると推定されている。この危険性は、貧しい国の女性、そして世界中の貧困層の女性に高い。

この悲劇により、家族には大きな空白ができ、子どもの生存率が低くなるため、コミュニティの弱体化につながる。

母親の健康と新生児の健康は切り離せない関係であるため、世界保健機構（WHO）は「妊産婦・新生児の健康」という用語を今日では使用している。

妊産婦の健康を守るために質の高いリプロダクティブ・ヘルス関連サービスを楽しむようにし、その他の経済的、社会的措置を実施することは、費用効率の高い対応策であり、少子化に取り組む国においても有効である。

##### —現状—

- 開発途上国に住む2億1,500万人の女性は必要な家族計画サービスを楽しむことができず、この避妊に関するニーズが満たされていないことが、望まない妊娠のうち82%の原因となっている。
- 母親になることは、危険であり生命を脅かしかねない。毎年35万人以上、つまり90秒に1人の女性が、妊娠と出産が原因で亡くなっているが、これらの多くは防ぐことのできた死

である。そして妊娠、出産による母親の死の99%が発展途上国で起きている。

### —最近の傾向—

- 世界銀行の行った研究によると、リプロダクティブ・ヘルスケアの費用効率が非常に高いということがわかった。一人につき4.10米ドルを投資すれば世界における疾病負担を8%削減することができる。(この内訳としては、家族計画に90セント、産前健診と出産時ケアに3米ドル、性感染症対策に20セントである。) さらに1.70米ドルあれば、HIV/AIDS予防により2%の疾病負担を削減できる。
- 妊産婦の健康を改善する保健医療システムを強化すれば、それ以外の健康に関する様々な分野にも恩恵がある。例えば、救急センターやHIV/AIDS予防、交通手段、医療従事者の訓練などが挙げられる。
- 母親が教育を受けることは、直接的に子どもの死亡率を下げることにつながる。医学雑誌『The Lancet』に掲載された最近の分析によると、過去40年間の子どもの死亡率の低下のうちの半分は、女性の教育が直接的な理由となっている。
- 妊婦と新生児に適切なケアを施すためには、年間230億米ドルが必要とされる。また、不足している家族計画に関する需要を満たすには、さらに36億米ドルがかかる。しかし、5,000万人の妊娠を回避することで51億米ドルの保険医療費を減らすことができるため、15億米ドルを節約できることになり、非常に費用効率の高い投資だと言える。
- 開発途上国の不足している家族計画サービスを供給し、適切な母子保健ケアのために投資することにより、妊産婦死亡を2/3以上、つまり年間35万6,000人から10万5,000人にまで下げることができる。また、新生児死亡は半分以上、つまり320万人から150万人にまで下げることができる。さらに、望まない妊娠を2/3以上防ぐことができ、7,500万人から2,200万人にまで下げることができる。そして危険の伴う中絶を3/4防ぐことができ、2,000万人から550万人にまで下げることが可能となる。